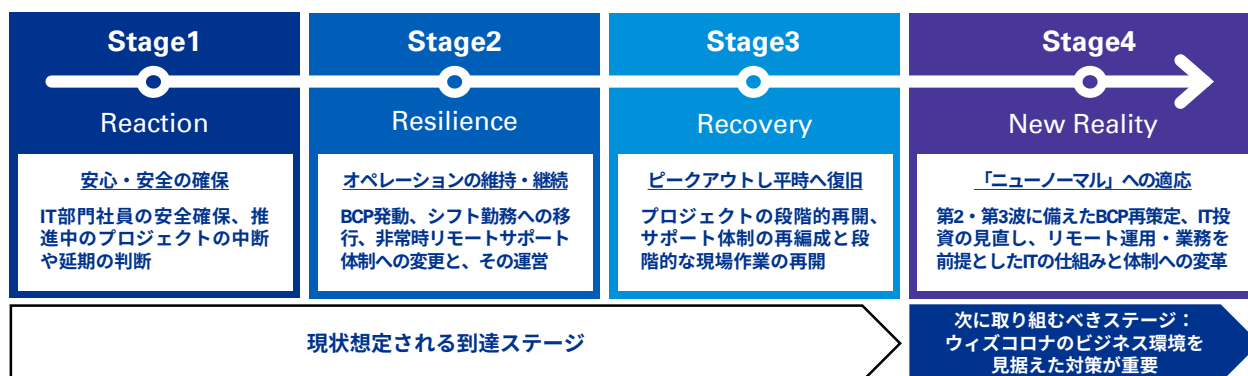


ニューノーマルに向けた IT投資とコストの見直し支援

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大により変化する社会環境において、KPMGは、中長期的効果を創出するためのITポートフォリオ最適化の提言にとどまらず、短期的効果の創出を念頭に、着実な成果（≒ITコスト削減機会の創出等）を生み出すための各種取組みを支援します。

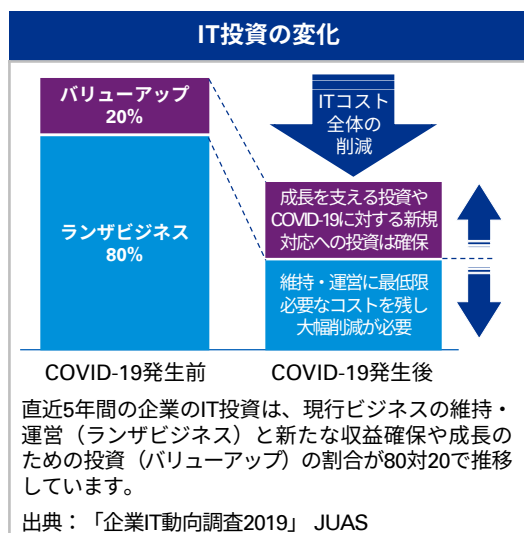
感染症の蔓延という過去に経験したことのない不測の事態に際して、これまでの企業の視点は、Stage1（Reaction）、Stage2（Resilience）が中心でした。緊急事態宣言解除への動きや、新しい生活様式に関する検討の増加とともに、企業の関心も徐々にStage3以降へとシフトし、コロナ禍でのビジネス環境変化が「ニューノーマル」となることを前提に、単なる原点回帰ではなく、企業価値向上に資する対応が求められます。

COVID-19対応ステージの変遷とIT部門の取組み



IT部門における現状の課題

コロナ禍で企業の売上や利益は例年に比べ大幅に低下することが予想され、経済状況を立て直すために各社がさまざまな取組みを施行しても、回復までは時間がかかることが想定されます。このような状況下では、ビジネス戦略の変更に沿う形でのIT投資の見直しやIT運営コストの削減が、IT部門の取り組むべき喫緊の課題となります。



IT投資の見直しとITコスト削減の方向性

- Point** ビジネス戦略・計画の変更に伴い、バリューアップおよびランザビジネス全体のIT戦略・投資計画を見直す
 - 計画済の施策については内容の再精査に伴う実施要否判断、実行タイミングの見直し
 - 進行中の施策についてはビジネスケースの再試算に伴う継続要否判断、内容の縮小検討
 - 未実施や延期に伴う影響およびリスクの再調査と対応策検討
- Point** バリューアップを確保する上でも比率の高いランザビジネスを中心に削減機会を抽出する
 - 人件費に注目：**
 - IT機能再定義による業務効率化推進とソーシング戦略見直し
 - インフラ基盤（ハードウェア[HW]/ソフトウェア[SW]等）に注目：**
 - 過剰なHW/SWの洗い出しとテクノロジー戦略・計画の見直し

関連サービス

ニューノーマルに向けたITポートフォリオ最適化支援

COVID-19によるビジネス環境の変化を受けて、全社的なIT投資を抑制するためには、ITポートフォリオの見直しが不可欠です。売上や利益の落ち込みに伴い予算・リソースの制約がより一層厳しくなる中、既存のIT投資を削減、あるいは新たなビジネス環境に求められる新規のIT投資を実行するためには、ITポートフォリオの投資評価の見直しが非常に重要です。加えて、ビジネス環境が流動的に変

化する状況下では、ビジネス戦略との整合性確保や期待効果（投資対効果）の最大化を目的に、ITポートフォリオを定期的に見直すための管理フレームワークの構築が必要です。KPMGはさまざまな業界におけるITプロジェクトの経験とグローバルのナレッジに基づき、企業の状況に応じたITポートフォリオの見直しおよび管理フレームワークの構築を支援します。



IT部門が取り組むべき主な課題

- ビジネス環境の変化に応じたITポートフォリオの再検討
- ITポートフォリオの継続的な管理のためのフレームワーク整備
- IT投資の変更・中止等に関するステークホルダーとの対話・合意形成
- グローバルでのIT投資の削減（全体最適化）

代表的なサービス

- ビジネス環境の変化に応じたITポートフォリオの見直し
- ITポートフォリオの管理フレームワーク構築
- IT投資に関するステークホルダーとの連携支援
- IT投資のグローバル（全社）での抑制・最適化
- IT投資のベンチマーキング
- IT投資・IT戦略の見直し

ソーシング戦略再策定支援

ITコストの中で、人件費は比較的大きく、またキャッシュアウト削減の観点から、アウトソーシングや開発・保守などの外部ベンダーへの委託費の削減が最優先事項となることがあります。しかし、人的リソースはシステムを支える源泉であり、単価の削減やベンダーの変更、内部リソースへのシフトなどをやみくもに進めることはできません。KPMGは、現行システムの簡易分析、人員の作業分析、

外部委託契約の精査を通じて、独自の知見を活用し実行力あるコスト削減施策の立案を支援します。また、緊急のコスト削減要求に対応しつつも、この危機をチャンスと捉え、内外製のリソース最適配置、内製化の推進を含む筋肉質な組織へ変革するためのソーシング戦略再策定を支援します。



IT部門が取り組むべき主な課題

- ベンダー、アウトソーシングなどのキャッシュアウトの削減
- 無駄な作業の削減、生産性向上、単価の適正化などによる人件費の最適化
- システム特性、IT業務の視点を考慮したソーシング戦略の適正化
- 次代のあるべきIT部門を想定した内製化などの方向性決定

代表的なサービス

- 人件費の内訳、システムの特長、IT業務の簡易分析
- 契約内容を含むベンダーパフォーマンスの調査
- 仮説に基づくコスト削減領域の導出
- 短期、中長期のITコスト削減施策の立案
- ソーシング戦略の見直し・再策定

インフラコスト削減機会の創出およびクラウド活用推進支援

ランザビジネスを支えるシステム運営費、なかでもHWやSWの保守やライセンス等のインフラコストについては、システム導入後5～10年間で定期的に発生します。さらに、これらのIT資産を維持するためには不定期に発生するコンプライアンス対応やセキュリティ対策、EOL（製品のサポート終了）等の一時的な費用も各企業にとって重い負担としてのしかかってきます。COVID-19の影響に

よってこれまでの業務オペレーションが変化し、下支えするITシステムも変化への対応が求められます。KPMGはこれまでのITシステムへの投資が適切で無駄なリソースがないかを検証し、即効性の高いインフラコストの徹底的な削減機会を創出しつつ、中長期的な視点でIT投資の適正化に資するクラウド・バイ・デフォルトの新たなテクノロジー戦略策定を支援します。



IT部門が取り組むべき主な課題

- 直近数年間のITコスト支出状況の正確な把握
- 無駄なHWやSW等のインフラコストの削減
- 長期にわたり構築してきたシステムからの脱却
- ITアーキテクチャの変革
- 将来に向けたデジタルトランスフォーメーション（DX）推進の加速化

代表的なサービス

- IT支出の内訳、IT資産の活用状況の調査・分析
- コスト削減機会の課題仮説に基づく評価・分析
- コスト削減施策の提案・実行計画の策定支援
- クラウド移行計画策定支援
- ITアーキテクチャ全体最適化、DX推進支援

KPMGコンサルティング株式会社

T : 03-3548-5111

E : kc@jp.kpmg.com

home.kpmg/jp/kc

本リーフレットで紹介するサービスは、公認会計士法、独立性規則及び利益相反等の観点から、提供できる企業や提供できる業務の範囲等に一定の制限がかかる場合があります。詳しくはKPMGコンサルティング株式会社までお問い合わせください。

ここに記載されている情報はあくまで一般的なものであり、特定の個人や組織が置かれている状況に対応するものではありません。私たちは、的確な情報をタイムリーに提供できるよう努めておりますが、情報を受け取られた時点及びそれ以降においての正確さは保証の限りではありません。何らかの行動を取られる場合は、ここにある情報のみを根拠とせず、プロフェッショナルが特定の状況を綿密に調査した上で提案する適切なアドバイスをもとにご判断ください。

© 2020 KPMG Consulting Co., Ltd., a company established under the Japan Company Law and a member firm of the KPMG network of independent member firms affiliated with KPMG International Cooperative ("KPMG International"), a Swiss entity. All rights reserved. 20-5061

The KPMG name and logo are registered trademarks or trademarks of KPMG International.